

耕作放棄田が出る前に、
集落の話し合いを始めよう

嬉野市 春野集落の農地を守る会
代表 ○○ ○○

**嬉野市塩田町春野集落は
ここに 있습니다**

○春野集落には集落営農組織が
ありません

○今、なぜ、集落営農組織の話し合いを
スタート？

- ・集落内で耕作放棄地が発生しました
- ・高齢化が進み、後継者がいない農地が荒れる
心配がある
- ・農地を守る受け皿がなかった
- ・機械化貧乏からの脱却

話し合いは、このように始めました

- ①まず、JAに相談
- ②生産組合役員と関係機関
一緒に勉強会を開催
- ③勉強会の報告と集落みんなの考えを
知るため、集落全体会を開催
- ④集落の現状と後継者の考えを把握す
るため、アンケートを実施

アンケートは、昨年のお正月に
実施しました

○経営主と後継者の考え
を確認するため、両方
に行いました

アンケート様式

アンケート結果から見えてきた
春野集落の10年後予測

- ①経営主の平均年齢は77歳となる
- ②半分以上は耕作放棄地となる
- ③定年後に後継者の概ね4割は農業をしない
- ④組織が出来たら、協力できる後継者が12人
いる

アンケート結果を集落全体会で報告し、『設立準備委員会』を立ち上げました

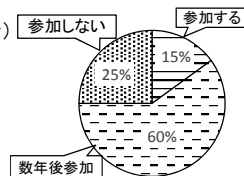
- ①メンバー: 認定農業者を含む同世代の仲間
- ②目的: 耕作放棄地を出さない方策を検討し、集落に提案するため
- ③こんな意見ができました
 - ・条件不利地など、どこまで対応するか
 - ・水管理など機械化出来ない作業をどうするか
 - ・水稲単作地帯で、法人化して経営が成り立つか



みんなに、法人化への考えを聞いてみました (H29.9)

意向調査の結果(面積割合 %)

- ①結果は…… (人数)(面積割合)
 - ・参加する 12人 (15%)
 - ・数年後参加 18人 (60%)
 - ・参加しない 20人 (25%)
- ②結果から見てきたこと
 - ・現状で法人を設立しても運営が厳しい
 - ・様子見の人が大半を占める
 - ・数年後、参加する人の面積は集落の75%となる



話し合いを進めてきて

1 工夫したこと

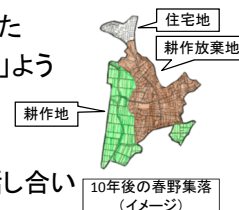
- ①みんなに出席してもらうため、農家の氏名を書いて会議の案内文を全農家に配布した
- ②議題は事前に決め、JAや市役所、普及センターに相談して内容を検討した

2 よかったこと わかったこと

- ①みんなが集まって、集落の農地について話し合う機会が芽生え、スタートラインに立てた

- ②「現状のままでは農地が荒れる」という、地域の将来像がはっきり分かった

- ③「全ての作業は法人が行う」ような認識の違いがみられた



- 3 もし、春野の農地を守る話し合いをしていなかったら

- ・個々では農地を維持する解決策が見つからず、耕作放棄が一気に進んでいく

これからの取組み

- 今、ここで立ち止まったら、春野集落の農地は必ず荒れます
- ①まずは、春野生産組合で作業受託組織を検討していく
 - ②今迄の話し合いを糧に、みんなで助け合い農地を守る仕組みづくりの話し合いを継続する

会場の皆さんへ

- ・「鳴かぬなら 鳴かせて見せよう ホトトギス」
- ・不可能を可能にしてやるとの思いを胸に、前向きに、積極的に取り組み、「藤津の農地を守っていこう」ではありませんか